

令和元年10月23日

保護者 様

人吉市立第二中学校
校長 白濱 雄志

情報安全・情報モラル教育について（お知らせ）

紅葉の候、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のことと拝察いたします。また、日頃より、本校教育活動にご協力いただき、感謝申し上げます。

さて、本校におきましては、昨今の情報通信機器の普及に伴い、SNS上でのトラブル等を懸念しているところです。

つきましては、このことについて、下記のとおり県作成資料を配付いたします。ご家庭におかれましても、生徒の健全育成のため、ご指導をお願いいたします。

なお、県作成資料は、全10回分となっておりますので、随時配付いたします。

記

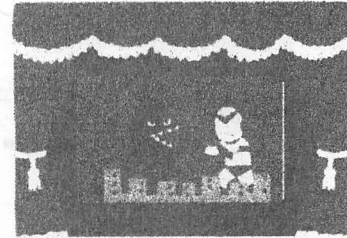
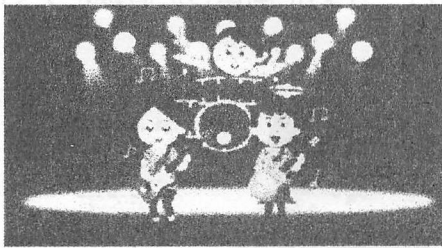
- 情報モラル啓発資料（第6号及び第7号）

よく見かける問題のある画像の投稿

インターネットには日々多くの画像が投稿されています。遊びに行った際の記念に撮影したものや、日常生活のひとコマを写したもの、街中や自然の風景を撮影したものなど、その種類はさまざまです。しかし、中には問題のある画像を投稿している人もいます。今回は、インターネット上でよく見かける問題のある画像の投稿についてお話ししたいと思います。

撮影禁止場所で撮影した画像

インターネットによく投稿されるのが、撮影禁止場所で撮影した画像です。撮影禁止となっているコンサートのステージや、上映中の映画館のスクリーンなどを撮影し、SNSなどのサービスに投稿している人がいます。こうした画像を投稿すると、著作権侵害となる恐れがあると同時に、閲覧した人たちから非難のコメントが集まる可能性があります。



こうした投稿を防ぐためには、撮影対象のイベントや建造物などが撮影禁止になっていないかどうか必ず確認する癖をつける必要があります。

※イベントなどによっては、撮影は許可していても、撮影した画像をインターネットに投稿することは禁止している場合もあるので、注意が必要です。

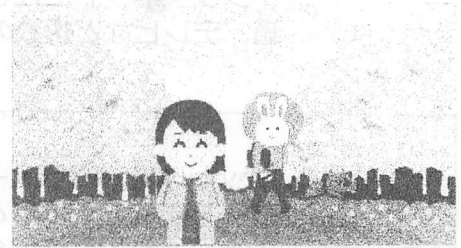
他者が写り込んだ画像

インターネットには、他者が写り込んだ画像が投稿されることがあります。外や店の中などで撮影した画像の背景に、顔がはっきりとわかる状態で他者が写り込んでいることがあるのです。こうした画像を投稿すると、もし対象の人物がその投稿を目にした場合、トラブルに発展してしまう可能性があります。

周囲に人がいる場所で撮影するときは、他者の写り込みに注意することが大切です。もし他者が写り込んでしまった画像をインターネットに投稿したいときは、スタンプやぼかし、モザイクなどで個人が判別できないように画像を加工する必要があります。



スタンプで、個人が判別できないように加工



インターネットに画像を投稿する前に、その画像が問題のあるものではないか必ず確認するよう、子どもたちに指導していくことが大切です。

情報収集ツールとしてのインターネット

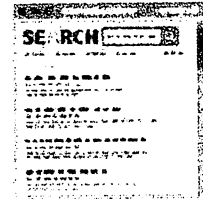
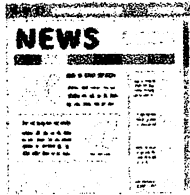
スマートフォンなどのインターネット機器の普及に伴い、インターネットは私たちにとってもっとも身近な情報収集ツールのひとつとなっています。調べものをするときは決まってインターネットを使うという方も多いのではないのでしょうか。

しかし、情報収集ツールとしてのインターネットには、メリットもデメリットもあります。

情報収集ツールとしてのインターネットのふたつのメリット

情報収集ツールとしてのインターネットのメリットとしてあげられるのが、最新の情報が入手できることです。新聞や書籍などの紙媒体と違って、インターネットでは絶えず情報が更新されているので、24時間いつでも新しい情報をいち早く入手することが可能です。

また、欲しい情報を簡単に調べることができることも、インターネットのすぐれた点です。インターネット機器さえあれば、キーワードを入力するだけで、それに関連した情報をすぐに見ることができます。



インターネット上には嘘やまちがった情報もたくさんある

インターネットのデメリットとしては、情報の信ぴょう性が薄いということがあげられます。テレビや新聞などのメディアとは違い、インターネットでは誰でも手軽に情報を公開することができます。そのため、インターネットには嘘やまちがった情報もたくさんあるのです。

インターネットで情報収集をするときは、以下のようなことを意識して、自分で情報の正しさを確認することが大切です。

- ・情報が載っているサイトや、情報の提供元が信頼できるかどうか確認する
- ・情報が掲載された日付を確認する(その情報が古いものではないかを確認)
- ・インターネットだけを見て情報を判断するのではなく、新聞や書籍、テレビなど複数のメディアから情報を集める



インターネットは情報収集ツールとしてとても便利な反面、嘘やまちがった情報が多いというデメリットもあります。そのことを子どもたちに理解させ、インターネットに載っている情報をそのままのみにするのではなく、自分で情報の正しさを確認するよう指導していくことが大切です。